



新探索 日语泛读教程

总主编 耿铁珍
主 编 程慧慧
副主编 韦小燕 符 婕

探求有效的**教学**方法

培养初学者的**兴趣**

很好地引导入门并打下**坚实**的基础



哈尔滨工业大学出版社
HARBIN INSTITUTE OF TECHNOLOGY PRESS

内部使用

新探索日语泛读教程

总主编 耿铁珍

主 编 程慧慧

副主编 韦小燕

符 婕

贵州师范学院内部使用

哈尔滨工业大学出版社

内容简介

本书由 20 课组成。每课包括正文、练习、拓展阅读三个部分。练习题依据第二语言习得理论进行设计，存在适当的语言重复和语言输出练习，是为了达到强化语言学习的目的。同时，练习题所考查的知识点贴近日语国际能力水平测试的全真试题。

本书适合高职高专学生使用，同时也适合自学者、非日语专业第二外语学习者和专升本的学生使用。

图书在版编目 (CIP) 数据

新探索日语泛读教程 / 程慧慧主编. --哈尔滨 :
哈尔滨工业大学出版社, 2019. 7
(日语系列图书 / 耿铁珍总主编)
ISBN 978-7-5603-8427-6

I. ①新… II. ①程… III. ①日语-阅读教学-高等学校-教材 IV. ①H369. 4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2019) 第 150014 号

策划编辑	甄淼淼
责任编辑	苗金英
出版发行	哈尔滨工业大学出版社
社 址	哈尔滨市南岗区复华四道街 10 号 邮编 150006
传 真	0451-86414749
网 址	http://hitpress.hit.edu.cn
印 刷	黑龙江艺德印刷有限责任公司
开 本	787mm×1092mm 1/16 印张 10 字数 242 千字
版 次	2019 年 7 月第 1 版 2019 年 7 月第 1 次印刷
书 号	ISBN 978-7-5603-8427-6
定 价	38.80 元

(如因印装质量问题影响阅读, 我社负责调换)

前 言

根据国家对高职高专教育人才培养的基本定位,在总结高职高专日语课程教学改革经验的基础上,经过两年广泛的社会调查和教学状况调查,并且基于对高职教育发展的前瞻性认识,我们组织有多年实践教学经验,且一直承担高职日语教学工作的一线教师,根据高职学生的学习特点和社会发展的现实需求,结合国家大学日语新标准的制定方案,编写了本书。本书适合日语专业2年级教学使用。目前高职高专日语专业的阅读课时为每周2课时,每学期为1C~18周(32~3C课时)。本书共有20课,可根据实际教学情况,分上、下两个学期使用。

本书根据国际日语能力水平J2、J3级的考试标准和要求编写。学生学完本书后可达到国际日语能力J2级测试水平。

本书的每篇课文均由三部分构成。

1. 正文。文章大都取材于近几年的新内容。由浅入深,由短变长。单词表采用日文对日文的解释,以减少母语的干扰。通过对正文内容的学习,学生可接受大量的语言输入,有机会记忆大量的词汇和句型。

2. 练习。主要包含对词汇、重要句型、内容理解的考查。练习的设计运用了大量的二语习得理论知识。练习题中包含适当的出题句子的重复,以达到强化语言学习的目的。习题中针对课文内容的设问部分,从整体到细节的提问,能够深入考查学生对文章的理解程度。习题中“内容要约”部分通过语言的输出来强化所学内容。语言的输入与输出相结合,能够提高学生的日语综合应用能力。

3. 拓展阅读。一部分拓展阅读的内容和正文内容有一定的相关性,甚至有一部分的单词也存在重复,以强化语言的学习。每个拓展阅读都设置2~3个问题,出题角度贴近国际日语能力水平测试的全真试题,考查学生阅读时的推测能力、理解能力等。

本书有以下特点:

1. 文章取材新。大都取材于近几年的文章。
2. 从头到尾的设计都遵循理论依据,即第二语言习得理论。
3. 出题角度紧贴国际日语能力水平测试真题。

本书由耿铁珍教授任总主编，负责整体的框架设计。本书由程慧慧任主编，负责编写 1~20 课的练习部分，以及全书的排版及整理修改工作；韦小燕编写 1~20 课的正文和单词表部分；符婕编写 1~20 课的拓展练习部分。最后由日本外教主审，总主编定稿。

本书在编写过程中，得到了海南外国语职业学院东语系领导和日本外教永田基子老师和永仓哲郎老师以及西安交通大学张文丽教授的大力支持，在此一并深表谢意。

由于时间紧促，编者的水平有限，书中难免有疏漏之处，恳请各位专家、同仁以及广大读者批评指正。

编者

2010 年 7 月

目次

第1課	ランドセルの春	1
第2課	思いやり	9
第3課	花見の幹事	16
第4課	余震の今後	23
第5課	机がジグザグの職場	31
第6課	コンビニ人間の国	37
第7課	昔の夏が好き	44
第8課	ものを頼むときの作法	51
第9課	腰痛と人類	59
第10課	善意の傘の行方	66
第11課	デジタルとの付き合い方	73
第12課	言葉の宝石	80
第13課	味覚の中の文化交流	86
第14課	顔の筋肉に注目	94
第15課	チャットで仕事効率化	102
第16課	器用な日本人	109
第17課	早朝の東京の街	116
第18課	インターネットショッピング	124
第19課	宅配の未来	132
第20課	AI 選別	142
参考文献		154

第1課 ランドセルの春

単語

ランドセルと言えば、入学直前のいまごろ買うのが常識だった。近ごろはずいぶん早い。色調や材質を選びたいなら、注文は入学前年の春の連休かお盆のころに。入学の前々年度に早々と注文する家庭もあると聞く。

「お目当ての品が手に入らず、がっかりしたという声がSNSで拡散する。それが注文時期を早めているようです」とランドセル工業会の林州代会長(63)。名古屋市で専門店「村瀬靴行」を経営する。

筆者が子どものころ、ランドセルは男子なら黒、女子なら赤だった。いまはすっかり多色化した。「男の子が白を選んだり、女子が紫色を買ったり。色の境界は薄れてきました。」

工業会によると、ランドセルが考案されたのは明治半ば。当時の華族らが多く通った学習院初等科で、児童が従者に荷を持たせて登校する姿を学校当局が憂慮し、「自力で通学できるカバンを」と推奨した。戦後、津々浦々へ広まったという。

売り場をのぞくと、価格の幅に驚く。品ぞろえが手厚いのは5万円前後だが、10万円を超す高級品もある。堅牢さが特長のランドセルながら、近年は軽量化を求める声が高くなる。教科書類が厚くなり、肩にかかる荷が重くなったからだ。高くても重くても全国的な話題を呼ぶ。ランドセルの宿命と言うべきか。

〈菜の花やまだ空つぼのランドセル〉小林美成子。いまはまだ包装をかけられて、中には何も入っていない時期だろう。入学はもう目の前。たちまち子どもたちの夢で満たされることだろう。

(出典：天声人語、2019年3月5日)

語彙

色調 [しきちょう] ①	(名)	色の配合、濃淡・強弱などの調子。色合い。 「柔らかい—の照明」
連休 [れんきゅう] ①	(名)	休日が続くこと。また、連続した休日。
お盆 [おぼん] ②	(名)	盂蘭盆会(ウラボンエ)のこと。「—の帰省客」
目当て [めあて] ①	(名)	事をするときの到達点・基準などとして心に決めていること。「賞金が—だ」「五キロを—に減量する」
早める [はやめる] ③	(他一)	期日・時刻などを早くする。くりあげる。 「開会を—める」
専門店 [せんもんてん] ③	(名)	特定の種類の品物だけを売っている店。「カメラ—」
考案 [こうあん] ①	(名)(スル)	工夫をめぐらし、考え出すこと。「—者」「新製品を—する」
華族 [かぞく] ①	(名)	旧憲法下、皇族の下、士族の上に置かれ貴族として遇せられた特権的身分。1869年(明治2)旧公卿・大名の称としたのに始まり(旧華族)、84年の華族令により、公・侯・伯・子・男の爵位が授けられ、国家に貢献した政治家・軍人・官吏などにも適用されるに至った。1947年(昭和22)新憲法施行により廃止。
従者 [じゅうしゃ] ①	(名)	主人のともをする人。おとも。ともびと。じゅうしゃ。ずさ。
荷 [に] ①①	(名)	持ち運んだり、送ったりするために、ひとまとめにしたもの。にもつ。「両手に—を下げる」「市場に—がはいる」
登校 [とうこう] ①	(名)(スル)	生徒・先生が授業や勤務などのために学校に行くこと。

憂慮 [ゆうりょ] ①	(名) (スル)	心配すること。不安に思うこと。「一すべき事態」「一の面持ち」
推奨 [すいしょう] ①	(名) (スル)	ある事物または人をほめて、他人にすすめること。「口をきわめて一する」
津々浦々 [つつうらうら] ④	(名)	国中すべて、全国至る所ということ。 ◎「津」は港、「浦」は海岸の意。「つづうらうら」とも言う。
幅 [はば] ①	(名)	布製のものの幅(ハバ)を数える単位。並幅(約36センチメートル)一枚を一幅(ヒトノ)とする。「四一の布団」「三一半」
品揃え [しなぞろえ] ③	(名)	商品を用意しておくこと。また、その商品の種類。「一の豊富な店」
手厚い [てあつい] ①③	(形)	取り扱いやもてなし方に心がこもっていて丁寧である。親切で手落ちがない。「一・い看護を受ける」「一・くもてなす」「一・く葬る」
求める [もとめる] ③	(他一)	他人に対して、物や行動を要求する。「署名を一・める」「発言を一・める」「一夜の宿を一・める」
宿命 [しゅくめい] ①	(名)	前世から定まっておき、人間の力では避けることも変えることもできない運命。宿運。「これも一と思つてあきらめよう」
空っぽ [からっぽ] ①	(名・形動)	中に何も入っていない・こと(さま)。から。「一の財布」「頭の中は一だ」
たちまち①	(副)	物事が短時間内に行われるさま。またたく間。「一売り切れる」「一(に)消える水の泡」「一のうちに問題を解決する」「一年なんて一だね」
満たす [みたす] ②	(他五)	いっぱいにする。容器などに入れて満ちるようにする。「ごちそうで腹を一・す」「杯に酒を一・す」

第1課 練習問題

I. 構文

①②を参考にして③を完成してください。

1. といえば

- ① 森町といえば、昔から木材の産地だが、最近は温泉が吹き出して話題になっている。
② 高木さんといえば、切手というぐらい、彼の収集熱は有名だ。
③ _____、姿が見えませんね。

(说起花子，她去哪儿了，怎么都没见到她。)

2. ~ても~ても [XてもYても(…ても)Z] の形で二つ(以上)の条件を並べあげて、どちらの(どの)場合でも同じ結果になるという意味を表す。

- ① うちの子どもは、ニンジンでもピーマンでも、好き嫌いを言わないで食べます。
② 天気がよくても悪くても、雨が降っても風がふいても、新聞配達の仕事は休めない。
③ _____

(不论是走在大街上还是进到百货商店，到处都是人。)

II. 言葉の使い方

中の言葉を一つ選んで、適当な形にして _____ に書いてください。

1. 堅牢さが _____ のランドセルながら、近年は軽量化を求める声が _____。
2. 品ぞろえが手厚いのは5万円 _____ だが、10万円を _____ 高級品もある。
3. 売り場を _____ と、価格の幅に驚く。
4. 筆者が子どものころ、ランドセルは男子 _____ 黒、女子 _____ 赤だった。いまはすっかり多色化した。「男の子が白を選んだり、女子が紫色を買ったり。色の境界は _____」。
5. 教科書類が厚くなり、肩にかかる荷が重くなったからだ。高くても重くても全国的な話題を _____。
6. ランドセルといえば、入学直前のいまごろ買うのが _____ だった。

常識 呼ぶ なら 薄れる のぞく 超す 前後 特長 上がる

Ⅲ. 次の_____の漢字にふりがなをつけてください。

1. 色調や材質を選びたいなら、注文は入学前年の春の連休かお盆のころに。
2. 男の子が白を選んだり、女子が紫色を買ったり。色の境界は薄れてきました
3. 工業会によると、ランドセルが考案されたのは明治半ば。
4. いまはまだ包装をかけられて、中には何も入っていない時期だろう。入学はもう目の前。たちまち子どもたちの夢で満たされることだろう。
5. 当時の華族らが多く通った学習院初等科で、児童が従者に荷を持たせて登校する姿を学校当局が憂慮し、「自力で通学できるカバンを」と推奨した。

Ⅳ. 翻訳

1. お目当ての品が手に入らず、がっかりしたという声が SNS で拡散する。それが注文時期を早めているようです。

2. 当時の華族らが多く通った学習院初等科で、児童が従者に荷を持たせて登校する姿を学校当局が憂慮し、「自力で通学できるカバンを」と推奨した。

3. 教科書類が厚くなり、肩にかかる荷が重くなったからだ。高くても重くても全国的な話題を呼ぶ。ランドセルの宿命と言うべきか。

Ⅴ. 文章の内容に合っているものに○、間違っているものに×をつけてください。

1. () 最近、入学の前々年度にランドセルを買うようになっています。
2. () 違うブランドのランドセルの価格は差がありません。
3. () 今は男の子のランドセルの色は黄色のほうが多いそうです。
4. () 林州代会長によると、お客様の声に応じて、ランドセルの注文時期を早くしています。
5. () これからのランドセルはもっと重くなるはずだと筆者は言っています。

楽しく読もう

次の文章を読んで、1～3の質問に答えてください。

1. 2020年のオリンピックはどこで開催しますか。
2. 滝川クリステルさんは何語で「おもてなし」を言っていましたか。
3. 「おもてなし」の精神とはどんな精神ですか。

おもてなしの精神

2013年9月6日、国際オリンピック委員会総会により、2020年夏季オリンピックの開催地が東京に決定した。

それは、最近あまり明るいニュースのなかった日本国民にとって大きなニュースとなった。オリンピック開催地^{ほこ}補講でライバルだったスペインと差をつけるために、東京及び日本の^{すぐ}優れている点^{てん}が強くアピールされた。そのなかの一つで話題となったものに、日本人とフランス人のハーフで、アナウンサーでもある滝川クリステルさんが行った^{りゅうちょう}流暢なフランス語によるスピーチがある。

そのスピーチのなかで、滝川さんは、わざわざと言葉を^{おんせつ}音節ごとに切って、「お・も・て・な・し」という言葉を使った。「おもてなし」とは、「もてなし」に接頭語の「お」を付けて丁寧語（美化語）にした言い方で、電子大辞林によると「客を取り^と扱^{あつか}うこと」などの意味がある。滝川さんは、日本人には独特の「おもてなし」の精神があることを強調し、審査員や^{ちようしゅう}聴衆^{とら}の心を捉えた。

西洋にはホスピタリティーという言葉がある。ホスピタリティーが相手にサービスをするという「おもてなす側」を主体とした概念であるのに対し、日本人の「おもてなし」は、相手の気持ちになって考えるという「もてなされる側」を主体とした^{がいねん}概念であると言われている。

日本に滞在したことがある者は、ほとんどが「日本のサービスは優秀だ」と口をそろえて言う。日本では、どんなレストランへ行っても、銀行や郵便局へ行っても、誰もがとてもやさしく対応してくれる。相手の人の気持ちを害さないよう、時には文句でさえも温かく聞いてくれるのである。日本にいたときは当たり前だと思っていたが、いろいろな国へ行くうちに、それが特別だということに気づく。日本に戻って、その「おもてなし」に触れると、「ああ、日本に帰ってきたんだなあ」と実感が沸く。

さて、その日本独特の「おもてなし」の精神を世界の人に見せてもらう機会がオリンピックにより訪れた。相手の心に寄り添う「おもてなし」は、お客様が100人いれば100通りある。2020年東京オリンピックにおいて、日本の伝統を踏まえた新しい「お・も・て・な・し」がたくさん見られることだろう。今から楽しみである。

(出典：日本年度新鮮事，2014年12月)

第2課 思いやり

中西進¹

今日、タクシーに乗ったら、とても話し好きな運転手だった。いろいろと話しかけてくる。その途中で道路^{どうろ}のことになった。

「ああ、あの道ですね。ヒルキンに、よく通りましたよ」と運転手。

「うん?」、一瞬私は彼が何をいっているのか、理解できなかった。とくに「ヒルキン」とは、仕方ない。聞き返^{きかえ}してみた。「何?」

「今はヤキンですが、ヒルキンは道が混^こんでますからね」

それでやっと話が通^{つう}じた。「昼勤^{ひるきん}」と彼は言っているのである。交代制^{こうたいせい}で昼間の勤務^{ひるま さんむ}と夜間の勤務^{かん さんむ}とがあるらしい。それにしてもことばのルールから言えば、ヤキンの反対^{はんたい}はチュウキンのはずだ。会話ことばでは夜間^{やかん}に対して昼間^{ひるま}が対応^{たいおう}するから、このように整^{ととの}わないことになった。

当事者^{とうじしや}には何の疑問^{なん ぎもん}もおこらないのだろうが、部外者^{ぶがいしや}にはなかなかむづかしい。

じつは同じ経験^{じ むしよくいん}をつい先日もした。一人の事務職員^{じ むしよくいん}が「私もチョコホーにひっかかったことがあります」と言った。

さあ、私には「チョコホー」がわからない。いや、わからない前に聞き取^きれない。はたして「チョコホー」といったのか「チョコ棒^{ぼう}」といったのか、直法^{ちよくほう}? 地公法^{ち こうほう}? と頭の中でことばがぐるぐる回^{かいてん}転する。

「え、何ですって」と聞き返^{きかえ}して「地方公務員法^{ち ほうこう むいんほう}」のことだとやっとわかった。

こうしたことばは、いわばそれぞれの仕事世界^{しごとせ かい}の方言^{ほうげん}といていい。それを共通語^{きょうつうご}と誤^ご解^{かい}することが、人間には起こりがちなのだ。

しかし私は、これを仕方ないとは考えない。ことばは相手に受け取^{うけ}られて初めて存在^{そんざい}したことになるのであって、口にすればもう自明^{じめい}のこととしてことばが存在^{そんざい}するわけではな

¹ 中西進 (なかにしすすむ) : 国文学者・京都市立芸術大学学長。

い。考えてみれば、勝手にしゃべっているだけで、まったく相手に伝わっていない、「死骸ことば」の、何と多いことか。

それでは一体、何がことばを死骸でなくするのか。たった一つ、相手への思いやりだと私は思う。わかってもらえるかどうか、相手の事情を十分思いやったことばは、わかりやすい。すぐ受け取ってもらえる。やさしいことばだ。反対に、自分勝手に決め込んだことばは、暴力的なことばだ。あらゆる場合に、ことばを成り立たせる条件は、たった一つ、思いやりなのである。

(出典：日本語教育通信, 2004年9月)

語彙

思いやり [おもいやり] ①	(他五)	その人の身になって考えること。察して気遣うこと。同情。「—のない仕打ち」
通る [とおる] ①	(他五)	通行する。「自動車鉄橋を—」
特に [とくに] ①	(副)	それだけをとりたてていうさま。とりわけ。特別に。「—入念に仕上げる」
仕方がない [しかたない] ④	(形)	する手段・方法がない。
聞き返す [ききかえす] ③	(他五)	聞かれたときに逆に質問する。問い返す。
ヤキン①	(自)	夜間に働くこと。「—をする」
混む [こむ] ①	(自五)	(「込む」とも書く) 人・物などがその場所いっぱい集まる。混雑する。
通じる [つうじる] ①	(自一)	達する。了解される。わかる。
ルール [rule] ①	(名)	規則。きまり。「交通—」
整う [ととのう] ③	(自五)	話し合いなどがまとまる。「縁談が—」
むづかしい④	(形)	むずかしい。理解(実現)しにくい。

つい①	(副)	距離・時間などが非常に近いさま。すぐ。「—そこまで出かけました」「—今し方」
引っかかる [ひっかかる] ④	(自五)	やっかいなことにかかわりあう。関係が生じる。「選挙違反に—」
聞き取る [ききとる] ③	(他五)	音声や話を聞いてはっきり理解する。「雑音がひどくてよく—れない」
果たして [はたして] ②	(副)	(疑問表現・仮定表現を伴って) 疑いの気持ちや仮定であることを強調する語。ほんとうに。「—彼は何者か」「—結末はいかに」
ぐるぐる①	(副)	ものが回転したり、ある範囲内を何回も輪を描くように移動したりするさま。
言わば [いわば] ①②	(副)	[動詞「言う」の未然形に接続助詞「ば」の付いたものから] たとえて言えば。言ってみれば。
受け取る [うけとる] ①③	(他五)	他からの働きかけや話のある意味に解釈する。「何でも悪意に—る人だ」
口にする [くちにする]	(慣用)	口に出して言う。
自明 [じめい] ①	(名・形動)	特に証明などをしなくても、明らかであること。わかりきっていること。
唯 [たった] ①	(副)	〔「ただ」の転〕(下に数量を表す語を伴って) わずか。ほんの。
決め込む [きめこむ] ③	(他五)	こうだと信じて疑わないでいる。思い込む。「晴れるものと—んでいる」
あらゆる③	(連)	すべての。「—角度から検討する」
成り立つ [なりたつ] ③①	(自五)	要件が満たされてある事柄ができあがる。成立する。「契約が—つ」「方程式が—つ」